

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
保健体育	保健	1	2	全科	必修	現代保健体育 大修館

## 1. 学習の到達目標

個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力をそだてることを目標とする。

## 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価の規準	保健に関する諸問題について興味、関心を持ち意欲的に取り組み自ら学習しようとする。	保健に関する基本的な知識を身につけ、個人生活や社会生活における健康・安全に関する事柄に興味・関心を持ち、科学的に思考・判断する。	保健の意義や役割を理解でき、自らの健康管理や健康的な生活行動の選択および健康的な社会環境づくりが実践できる資質や能力を身につける。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・ノートなどの提出物の状況、定期考査などを総合的に判断して評価する。		

## 3. 教科からのメッセージ

若い世代に増えてきている飲酒や喫煙、また環境問題はここ数年大きく取り上げられている問題です。これらの問題について学び、個人にできる環境対策や生涯をつうじた健康づくりの基礎を築き、高齢者になっても生きがいをもって生活できるようにしましょう。

年間指導計画 科目名 保健体育（保健） 1 単位 2 学年

学期	月	学習項目 (単元・考査など)	おもな学習内容
1	4	【生涯を通じる健康】 1. 思春期と健康	<p><b>生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及びわが国の保健・医療制度や機関を適切に活用することの重要性を理解する。</b></p> <p>・思春期における心身の発達や健康問題について、特に性的成熟に伴い心理面、行動面が変化することを理解する。</p> <p>・加齢に伴い、心身が変化することを形態面及び機能面から理解し健やかに老いるためには、適切な健康習慣を保つことなど自己管理の重要性を理解する。</p> <p>・人々の健康を守るための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから保健に関する情報や医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることを理解する。</p> <p><b>社会生活における健康の保持増進には、環境などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について理解する。</b></p> <p>・人間の生活や産業活動に伴う大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などは人々の健康に影響を及ぼしたり被害をもたらすことがあることを理解する。</p> <p>・健康への影響や被害の防止のためには、環境の汚染や発生の防止及び改善の対策が必要であることを理解する。</p> <p>・上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物の処理などの環境食品の安全性の確保は、食品衛生法などに基づいて行われていることを理解する。</p> <p>・職業病や労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴いその質や量が変化してきたことを理解する。</p> <p>・働く人の日常生活においては積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上をはかることで健康の保持増進を図っていくことが重要であることを理解する。</p>
	5	2. 性意識と性行動の選択	
	6	3. 結婚生活と健康	
	7	4. 妊娠・出産と健康	
	8	5. 家族計画と人工妊娠中絶	
	9	6. 加齢と健康	
	10	7. 高齢者のための社会的とりくみ	
	11	8. 保健制度と保健サービスの活用	
	12	9. 医療制度と医療費	
2	1	【社会生活と健康】 1. 大気汚染と健康	
	2	2. 水質汚濁と健康	
	3	3. 土壌汚染と健康	
	4	4. 健康被害の防止と環境対策	
	5	5. 環境衛生活動のしくみと働き	
	6	6. 食品衛生活動のしくみと働き	
	7	7. 食品と環境の保健と私たち	
3	1	8. 働くことと健康	
	2	9. 労働災害・職業病と健康	
	3	10. 健康的な職業生活	